

令和4年7月20日発行

立山町教育センターだより 号外9

立山町教育センター 〒930-0221 立山町前沢 3318 TEL: 463-4407 FAX: 463-6622 URL: <http://www.tateyama-c.tym.ed.jp>

昨日、フィギュアスケートの羽生結弦選手が今後は競技会には出場せず、プロのアスリートとしてフィギュアスケートに関わりながら次のステージへと進むという決意表明をしました。さわやかな雰囲気にもまれたとても素敵な会見でした。4回転半に今後も挑戦することなので、羽生選手のかっこいい姿は、アイスダンスショーなどで見るのできるのでしょうか。

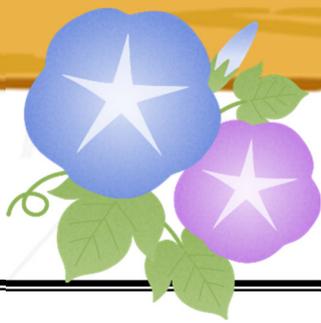
1学期の評価 その後にすべきことは

1学期の評価が完成し、いよいよ通知表の作成というところでしょうか。

「評価をしておしまい」こんな先生は立山区域の小中学校にはいらっしゃらないと思います。テストの点数等によって子供の学習状況を順位付けし、「大変良い」「良い」「努力が必要」といった成績を付けて終了ではありませんよね。

「指導と評価の一体化」という言葉があるように、子供の学習状況の評価は、裏返せば、教師の指導の評価です。理解が不確実な子供がいたならば「あの子は全然勉強しないから」といって子供の責任にするのではなく、まずすべきことは、自分の指導がどうだったのかを見つめ、改善を図ることです。さらに、子供一人一人に確実に学力が定着するように個別指導をしなければなりません。放課後や夏休みに個別指導をして確実な理解を図ったり、再度テストを行って学習に対する自信をもたせたりしてほしいのです。それが教師としての責任ですし、義務教育においては譲ることができないことだと思います。評価したからには、最後まで子供の面倒を見る覚悟が必要です。

どうか、愛情と情熱をもって最後まで子供一人一人を支えてください。



教師に求められる姿

時代がどのように変化しても、教育は人と人との触れ合いの上に成り立つものであり、教師には、常に人間としての温かさと厳しさが求められます。また、教職は児童生徒の成長や発達、心理についての深い理解や洞察の上に立って適切に指導・援助する専門職であるため、教師にはその専門性の発揮が強く要求されます。私たち教師は、自ら学び考える力や豊かな人間性を身に付け、21世紀をたくましく生きる児童生徒を育成するために、次のような教師を目指して努力していきたいものです。「個性を伸ばす教師」「学ぶ意欲を高める教師」「共感できる教師」「夢を語る教師」「生き生きとした教師」「広い視野をもつ教師」「自らを磨く教師」

「令和4年度 教員研修ハンドブック」より